



©AFLO

発業者や旅行会社、ホテルチェーンなどの外部資本が主導的に開発を進める観光、つまりその地域から見ると「他律的観光開発」が主流だった。資本力や技術力のない開発途上国にとっては、特に観光開発の初期段階は外部の力に頼らざるを得ないケースが多いため、決して悪いことではない。しかし、従来のマスツーリズムに代表される他律的観光開発の中には、観光地となった地域住民の意思や地域資源の維持・保全への配慮が十分でないといった理由から、地域住民への裨益が限定的であったり、さらにいえば、環境問題などの負のインパクトが生じるという弊害が見られた。

こうした状況を踏まえJICAは、地域の人々がそれぞれの資源を使って持続可能な「自律的観光開発」を推進するための協力を展開している。例えば、①観光省や地方観光局などの公的機関、旅行会社やガイド組合といった国内の民間企業、地域住民に対して、観光分野に必要なノウハウを伝える人材育成、②その地域特有の手工芸・民芸品といった地場産品のみならず、地域の史跡名勝などの観光資源を生かした観光商品開発、③観光プロモーション・マーケティング能力とその実施体制の支援などを行っている。そうした協力を通じて、地域の人々の収入向上、雇用創出、社会的調和

特集 観光開発  
地域の宝を掘り起せ



©Photodisc/Getty Images

# 地域力が 向上する 観光開発を

観光は、途上国にとって大きな可能性を秘めた産業だ。その恩恵が、地域住民にも行きわたり、地域全体の力を高めていくためのJICAの協力が今、各地で進められている。

の推進力の強化を図り、貧困削減にも貢献することを目指している。

国際社会においても、観光開発は「貧困削減の手段」ととらえられており、観光施設やインフラの整備といったハード中心の協力から、近年は文化・自然保全との両立を目指したツーリズム、人材育成、観光商品開発などソフト的な協力を含めた包括的な支援に移行してきている。

「その際に大切なのは、『公的機関』『民間』『地域住民』が三位一体となること」と浦野義人・JICAジュニア専門員は話す。つまり、観光振興に向けて三者が「対等に話し合い、情報共有を行える体制づくりが自律的観光開発のカギとなっているのだ。」

「初期段階では外部の力に頼らざるを得なくとも、JICAの協力で三者の能力が強化され、『どの段階で自律するか』を初期段階から三者が共有し、その目標に向かつて共に観光開発を推進することが重要です。」



## 日本の経験を生かして

今では島民の生活空間が観光資源となつて潤う沖縄県・竹富島も、かつては大型リゾート開発が計画され、一時は土地を売って外部資本に依存する道を進むか否かの選



## 途上国にとっての観光産業

夏休み真っただ中の8月。家族や友達同士で旅行に出かける人も多いだろう。世界には、魅力的な観光地がたくさんある。青い海が一望できるリゾート、大勢で楽しめるテーマパーク、広大で豊かな自然、何千年も前に築かれた歴史的建造物……。2009年、海外を旅した日本人は約1500万人、日本に旅行に来た外国人は670万人に上った<sup>※1</sup>。

観光は、外貨獲得の有望な手段であること、ほかの産業への波及効果が高いこと、雇用吸収力が高いことなどから、開発途上国にとって「魅力あふれる産業」だ。また、すでにその地域にある文化や世界遺産、自然などを有効に生かすことで発展の可能性がある観光産業は、莫大な資金や人材の投資を必要とする工業と比べ、参入しやすい分野といえる。実際、後発開発途上国<sup>※2</sup>では、観光による外貨収入がサービス貿易額の7割を占めており、観光産業が途上国に与える経済的なインパクトは、年々大きくなっている。



## 「他律的」から「自律的」へ

一般的にこれまでの「観光」は、観光開

沢に迫られた。しかし、他の島に比べて琉球時代の伝統的な建築物が多く残されていたこの土地の住民が選んだのは、島の文化的景観を生かした観光開発を進めることだった。そうして島民の生活レベルは徐々に改善され、1987年には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されるまでに。「島の価値を初めて気付かせてくれたのは、



©AFLO

※1 「日本政府観光局(JNTO)統計」より。  
※2 途上国の中でも特に開発が遅れている国々。

取材協力：浦野義人・JICAジュニア専門員(観光開発)